

Find Your Next Stage at SAIKO!



発行所
〒704-8112
岡山市東区西大寺上
2-1-17
Tel(086)942-4150
西大寺高校広報室



「感謝の念を持ち、一隅を照らす」

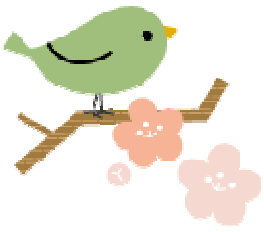
校長 松本 誠一



1990年前後、バブルが崩壊し、それ以来日本経済は右肩下がり状態が続いている。その間、湾岸戦争、9・11同時テロ、リーマンショックなど不穏な空気が世界を覆っている。日本国民、とりわけその後生まれ若者が、内向き志向であったり安全・安心を重視する傾向であるのはある意味やむを得ないかもしれない。
20世紀は操作主義の時代だったと言われている。相手を人間として尊重することを忘れ、相手の気持ちや行動を操作しようとし、この宇宙や自然に対する謙虚さや畏敬を失って、なんでも人間の理性で支配・コントロールできると考えた。昨年3月に発生した東日本の巨大地震や大津波によって起きた福島第一原発事故による放射能汚染被害は人間に対する自然からのしっぺ返しかもしれない。

今、世の中ではキーワードとして「共存」「共生」「協働」「絆」などの言葉が叫ばれている。少し前の社会にあった「相互扶助」や「お互い様」という助け合いの精神と同様なものを感じる。その基本となる精神は「感謝」と「謙虚」と考えている。今の世の中が暗いためか、「あれが悪い」「これがだめだ」と非難の声ばかり聞こえてくる。しかし、そんなことは言ってもしかたがないのではないのか。重要なものは、今自分は何をすべきか、何ができるかを考え行動することである。

誰も感じることは、文句ばかり言っている人に魅力は感じない。近づき友人になりたいと思う人もあまりいないだろう。そうではなく、この暗い世の中だからこそ周りのすべてに感謝の気持ちを持つことが大事である。感謝の気持ちを持つ人は必ず自省し、自己に厳しくなる。そうすれば他者に優しくなり、他者から見ても「一隅を照らす」存在にもなり得る。その結果、その人の魅力に惹かれ、多くの人が集まってくる。その人々の暖かな気持ち、あなたも毛布のようにその人を包み込んでいく。それこそ幸せの一つの形である。暗い世の中だからこそ、自ら光を照らす存在になろうと努力することが大切である。



目標

商業科 女子
(邑久中学校出身)
進路先 岡山県小中学校
事務職員

私の家では、毎年元旦になると1年の目標を書き初めにします。決意を文字にしてあらわすことで、意識しながら過ごすことができると考えているからです。

私が高校生活最後の1年を前に書いた文字は、『決断』です。そして実際に、この1年はたくさん決断をする年になりました。その中の1つは、進路です。

卒業生特集

優柔不断なところがある私はこの時期、友人たちが次々と進路決定をしていく中でまだ進路が決まらず、少し焦り始めていました。しかし、元旦に『決断』という目標を立ててから、進路は自分の一生に関わるかもしれない選択だけに、誰に相談しても最後には自分自身で決断しなければならぬ、と強く感じるようになりました。そして、就職すること、公務員試験を受けること、そのために夏休みを

つぶして専門学校に通うこと、学校事務職員となることを決断しました。最後まで諦めずやりきることができたのは、自分で決めたのだから、という思いがあったからだと思っています。

1年生、2年生の皆さんは、これから進路や部活動など、たくさん悩む、決断しなければならぬと思います。西大寺高校には、力になって下さる先生方が必ずいます。そんな先生方や親、仲間たちとよく相談してより多くの意見を参考に決めてください。そして、最後に必ず自分自身で決めてください。そうすることで、やり抜くことができるような気がしませんか？

私は、西大寺高校で学校生活や部活動を通し、たくさん悩むことを学びました。春から社会人1年生となる私が今年書いた書き初めは、『はじめの一步』です。今まで経験したことのない様々なことに、はじめの一步を踏み出して経験を積んでいきたくて考えています。皆さんも夢に向かって頑張ってください。

3年になり自分自身と葛藤したり、いろいろな人に相談したりして進路を決めることもでき、それからは面接練習をしたり履歴書を書いたり本当に大変でしたが西大寺の先生方は熱心に指導してくださいました。そのおかげもあり進路を実現することができました。西大寺高校では友達や先生、先輩や後輩などたくさんの人と出会うことができ、いろいろなことを経験していきます。その中でお互いに支えあい、頼れる存在を見つけてください。そして多くの方に支えられていることを忘れないでください。これから進路に向けて動き出す人は絶対に受かってやるという強い気持ちを持って悔いのないようにがんばってください。



後輩たちへ

商業科 男子

(操山中学校出身)
進路先 N T N株式会社

私は正直言って何をやるために西大寺高校を選んだのかは分かりません。何の目的もなく、商業II会社に役立つというような安易な考えで入学しました。

ですが、今思えば本当に西大寺高校に来てよかったと思います。簿記や情報処理・ビジネス基礎など訳も分からず習い始めましたが、勉強するにつれて技術が身につけていくのを感じ、私は商業科目をするほうが国数英などの普通科よりも楽しく学ぶことができました。もちろん分らないこともありました。先生方は優しく教えてくださいました。

2年になるとそろそろ進路を考えていくようになり、私は大学進学を考えていました。進路を実現するにおいて学校を休まないのは当たり前だろう。提出物はなんとでも出す。とにかくがんばろう。と考えたので委員会に入った。部活動もがんばったりしました。ですが、進路というのは難しく、私は進路をどうするか本当に悩みました。悩むことはいいことですが本当に怖かったです。

もう一度高校生になるなら、やはり私は西高に來たい

普通科 女子

(竜操中学校出身)
進路先 山口大学

数学嫌いだった私はこの春から理学部数理解科学科の学生になりました。小1では引き算の文章問題が分からず泣いていた子が何故数学を目指すようになったのでしょうか。



ここで3年間を振り返ってみます。入学当初、実は学校を辞めたいと思っていましたが、入部した美術部が楽しくて頑張れました。私は幼い頃から絵を描くのが好きで、この時は美大進学を考えています。また1学期中間以降、数学だけ塾に通い始めました。秋、文理選択前に岡大農学部を収穫祭に行って興味を持ち、理系も検討。悩んだ末理系に決定！もうすぐ高2という春、商業科の友達が数学の先生に勧められたと言って、私にある本を教えてくださいました。それが『生き抜くための数学入門』。この本は数学なんてなけりやいのにと感じていた私の考えを一新しました。そして数学で論理的思考力を培いたいと思うと同時に、数学そのものの魅力に引き込まれていきました。高2からは進路志望調査に数学科と書き、部活を辞め、小テストと提出物の嵐の中、様々な数学の本を読んだり、大学の公開講座に参加したりしました。高3は正直とても辛くて、精神も体調も崩壊してもう何もする気になれなかった時もあります。けれど大学のオープンキャンパスで教授や学生と話したりしてなんとか復活しました。また自分のペースで勉強したくて10月に塾を辞めました。

このように予想外の連続だった3年間ですが、もし西高に來ていなかったら今頃私は文系で数学から逃げ続けていたはず。先生や友達、本、知らなかった数学の魅力に出会えたのは西高に來たからで、本当に感謝しています。ありがとうございました。皆さんも西高で良かったと思えるような毎日を過ごして下さい。

みんなに感謝!

普通科 男子
(旭東中学校出身)
(進路先 山口大学)
私が西高で過ごした3年間の想いでは最高の宝物となりました!

3年前、西高に入学して間もないころは高校での勉強についていこうと毎日予習を頑張っていました。予習だけで精一杯という感じで2年生の中頃までは定期考査の順位はいつも100位前後でした。そんな中、2年生の中頃から得意で大好きな教科ができました。化学です。定期考査でも化学の勉強なら頑張れました。するとだんだん化学の順位が上がっていきま

最後の秋桜祭ではプロック長になり、みんなをまとめていけるか心配でしたが、クラス友達のみんなが協力してくれただけでとてもよい思い出ができました。
入学当初の私の夢は教師になることでしたが、化学が好きになってからは化学の力を活用して人の役に立つ職業に就きたいと思い始めるようになりました。すると、志望の大学や学部もすぐに決まり、その目標に向かって勉強を頑張りました。その結果、志望大学に合格することができました。

そして、卒業間近な今となっては、私はたくさんの人に感謝することがたくさんあることに気付きました。熱心に相談に乗ってくれた担任の先生、毎日面接練習をしてくださった先生方、秋桜祭に協力してくれた友達、まだまだたくさん感謝したい人はいますが、何より私の意志をいつも受け入れてくれ支えてくれた両親にはとても感謝しています。
みなさんも日頃からたくさんの人に支えられていることを忘れず、みなさんの目標に向かって部活動や勉強を頑張ってください。

卒業おめでとう



感謝

普通科 女子
(富山中学校出身)
(進路先 岡山赤十字看護専門学校)

私には六つ上の姉がいます。姉が高校生になったばかりの時、真新しい西大寺高校の制服を着て、学校のことについて話す姿は本当に楽しかったです。姉は生意気ながらに、姉と同じ高校に行きたいと思っていました。倍率の高い西大寺高校に合格するために、不安と戦いながら受験勉強をしてきたのが、昨日のことのように思い出されます。そして6年後、姉の後を追って私も西大寺高校に入学しました。

3年間はとにかくあつという間でした。球技大会、秋桜祭、修学旅行、何気ない日常、毎日がとても充実しており、1日1日が特別な記念日のようでした。特に、この1年間、3年5組の一員として過ごしてきましたが、皆の心の温かさがひしひしと伝わってきました。だからこそ、秋桜祭で優勝することができたのだと思います。そしてなにより、生徒のために尽力してくださる御二方の先生が担任であるということが、私たちの一番の自慢です。結果論かもしれませんが、

私は西大寺高校に入学して本当によかったと思つています。最初は姉に憧れて入学し、姉と同じレベルをたどり、自分の将来のことも何も考えていませんでしたが、西大寺高校で、夢を見つけることができました。そして姉以上に、私は笑って過ごすことができたと思います。私の背中を押してくれた友達、先生方、この恵まれた環境、そして家族にも感謝しています。最高の日々をありがとうございました。

「また明日」と言っていた日々を取り戻すことはできませんが、皆がそれぞれの場所であの日あの時を忘れることなく生きていくのだと思います。きつとまた会える日を信じて。



西高3年間でぎゅつとすると...

普通科 男子
(西大寺中学校出身)
(進路先 関西大学)

僕にとつて西高は多くの貴重な経験をさせてくれた場所でした。自分で言うのもあれですが、3年前の自分に比べればはるかに人間として大きくなれたと思つています。3年間の高校生活で忍耐強く耐えた勉強や熱くなれた部活、その両立に悩んだりしましたがそのなかで何かを得て成長しようと思ってきました。勉強はもちろん乗り気にはなれないので、テストの時は周りからいい点をとって「お前すげーな!」と言われて心のなかで照れている自分をイメージして時間が過ぎたり、家では気合いが入らず気付いたら夜になっていたりで、しかし、そんな自分にあきれ

ながらもやっぱりやる気が出るのでテストの度にテスト後の自分を妄想したり、だらけそうになつたら無理矢理自習室に行ったり、今まで話したことのないまじめ君に話しかけたりして、自分を刺激して努力を重ねてきました。部活では、キャプテンとなりそこらへんによくありそうなサッカー部を本気で勝てるチームにしようと思つて自分でも引くくらいがんばりました。でも、みんなサッカーをするためだけに西高に来たわけではないので、部活に対する思いもそれぞれで、意見がぶつかることも何度もありました。自信ありきで自らキャプテンを志願したというのもあり自分の考えを変えられずにいました。しかし、顧問の先生方や信頼できる友達と話すことで違った角度からの意見も取り入れながらがんばることができました。そして最後には、みんなが納得いく結果を残せたのでよかったのだと思います。また、普段の学校生活でもいやつぱりつかりで、ちよつと変つていくけどおもしろい考え方や、かっこいいこだわりをもつている友達がいたのは幸運でした。

はもちろんです。が、こういうのもありだと思つています。最後に、先生方にも友達にも僕にとつて成長させてくれた環境を与えてくれたことに感謝しています。ありがとうございました。

これからはさらに自分に磨きをかけつつとビッグな人間になれるようがんばります!

ありがとう

国際情報科
(吉永中学校出身)
(進路先 岡山県立大学)

西大寺高校に入学して早3年。まだ卒業という実感は湧いてきませんが、この3年間でふり返つてみると、本当にあつという間で、充実していたように思っています。国際情報科ならではの授業や行事は本当に楽しいものでした。その中でもやはりイングリッシュキャンプはとて

心に残つていきます。たくさんのALITの方との交流の中で、英語を話すことの楽しさや、一生懸命相手に自分の思いを伝えようとする大切さを学びました。そして、なんといっても一番の思い出は秋桜祭。休日にも集まり、クラスのみんなや1年生や2年生の力を借りて創り上げた展示のモザイクアートを見たときは正直感動で涙が出ました。すべてにおいて、1年生から3年生までが一致団結し、最高の盛り上がりでした。西高のあの団結力は本当にすごいと思います。行け行け西高も大好きです。
こんなにも充実した毎日を送ることができたのは、きつと周りの素晴らしい友人たちがいたからこそだと思います。国情はみんなとても個性的で、楽しい人たちがばかりで、毎日笑顔で溢れていたように思います。3年間ずっと一緒にいたみんなと離れるのはとても寂しいです。

私は卒業後、看護の道に進みます。きつと辛いこともたくさんあると思つていますが、これからも努力を惜しまず、人とのつながりを大切にしていきたいです。

西高でのみんなと過ごした日々は私がかげがえのない宝物です。心から西高の国際情報科でよかったと思つています。西高大好きです。国情大好きです。本当にありがとうございました。 We are the one!



御卒業おめでとうございます

文化委員長

やわらかな春の日差しが心地のよい季節を迎えました。卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。先輩方が心新たに、自分の道を突き進んでいける姿はとても輝かしく、自信に満ち溢れているように感じられます。思い起こせば、先輩方との思い出は数え切れないほどたくさんありますが、その中でも特に心に残つているのは、秋桜祭のことです。今年の秋桜祭は、先輩方がリーダーシップを十分に発揮してくださった結果、全プロックが賞状を勝ち取ることに(西大寺高校で史上初)ができ、とても盛り上がることができました。

また、私たちは普段の高校生活でも先輩方には部活動や委員会などでもお世話になり、勉強面や生活面でも御指導いただきました。いつでも明るく、そして優しく接してくださった先輩方はいつでも私たちの憧れでありお手本でした。

これからは先輩方に教わったたくさんのお話を私たちが後輩に伝えていく番です。すでに先輩方に恥じないようになり、一生懸命伝えていきたいと思つています。これからもこの西大寺高校で過ごした3年間での思いを胸に頑張つていつてもらいたいと思つています。在校生一同、先輩方の更なる飛躍を祈りながら応援しております。本当にありがとうございました。

編集後記

(広報室)

このJ S J通信3学期号は、卒業生特集として各クラス、また出身中学校もできるだけ多岐にわたるよう配慮して、代表の生徒に高校3年間の足跡を残してもらいました。勉強に部活動に学校行事にと汗と涙を流し全力を尽くした様子、また先生・友人と出会った喜びがよく綴られています。それらを読むと、卒業生が築いていった西大寺高校を、「西高、サイコー(最高)!!」と引き続いて言われるような魅力ある学校にしていきたいと思つています。
本年度277名の卒業生が、それぞれ多くの思い出を抱きながら人生の大海原へと船出します。卒業生のみなさんは、どうか母校西大寺高校で培った力を忘れず荒波を乗り越えてください。一人一人の卒業生に幸多かれと願います。

